

I. 学校の概要(平成16年1月現在)

島根大学教育学部附属小学校												
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	複式学級			特殊学級	計	教員数
							1・2年	3・4年	5・6年			
学級数	2	2	2	2	2	2	1	1	1	3	18	28
児童数	78	78	80	76	71	74	16	16	16	7	512	

II. 実践研究の概要

1. 主題

くらしをひらく子ども
- 子どもが自らの学びをつくる授業 -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科(選択した理由)

全学年(複式低中高, 特殊低中高を含む)・全教科
50回を超える研究発表協議会の開催など, 全ての教科専門部において先進的な研究を積み上げた実績があるため。
国語科, 算数科を除く教科について教科担任制を採り, 専門性を生かした教科担任制の授業の効果を実践的に解明するため。
全学年・国語科, 算数科を中心に
毎朝15分間の自主学習の時間を設け, 主体的な学習と補充的な学習を積み上げる学習形態を確立するため。
高学年・全教科
教科の異なる4つの授業から受たい授業を児童が選ぶシステムを導入した学習会・学習相談の授業を設け, 教科専門教官による補充的指導(小学校での学習のまとめ, 学習に対しての相談)の効果的なあり方を確立するため。
低中学年・国語科, 算数科を中心に
教科担任制を採っていない教科について, 教科専門教官と担任による協力的な授業(TT)を設け, 教材の工夫, 補充的な学習, 発展的な学習の工夫改善について実践研究を深めるため。
複式学級全学年・全教科
30回を超える複式教育研究会など複式教育に関する実績があり, ここで行われる少人数学習の研究は, 少人数指導にも生かせる要素を含んでいるため

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ 子どもが自らの学びをつくる授業で, 確かな学力を!
仮説 子どもが自らの学びをつくる授業をめざした授業の工夫と改善を行っていけば, 子どもに確かな学力を定着することができるであろう。
研究内容・方法
・実践研究計画立案
(研究主題, 実践研究内容・方法, 評価方法, 実践研究計画, 研究成果の普及・推進対策, 実践研究の組織等)
・実践研究体制整備
・実践研究内容・方法の年間計画の作成(実施教科, 学年, 実施形態等)
・実践研究推進(実践研究内容, 方法等の試行)
・研究発表協議会の開催(第50回研究発表協議会, 第33回複式教育を語る会, 第25回障害児教育を語る会, 第4回総合的な学習の時間を語る会)
・夏期集中校内研修会開催
・児童の実態調査等の実施(児童, PTA, 教職員)
・先進校等の視察, 他のフロンティアスクールの授業公開等への参加

平成15年度

テーマ 子どもが自らの学びをつくる授業で、確かな学力を！
教科の専門性を生かした特色ある授業づくり

仮説 専門的な教材研究から、子どもたちの学習に効果的な教材を開発・導入していけば、子どもに確かな学力を定着させることができるであろう

研究内容・方法

- ・ 1年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容，方法等の焦点化や拡充
- ・ 2年次の実践研究計画立案
- ・ 実践研究体制修正
- ・ 実践研究内容・方法の年間計画の見直し（実施教科，学年，実施形態等）
- ・ 実践研究推進（実践研究内容，方法等の試行）
- ・ 著書「自らの学びをつくる授業」の発刊
- ・ 研究発表協議会の開催（第51回研究発表協議会，第34回複式教育を語る会，平成15年度特別支援教育を語る会）
- ・ 学力向上フロンティア校内授業研修会の開催
- ・ 夏期集中校内研修会開催
- ・ 児童の実態調査等の実施（児童，PTA，教職員） 1年次との比較検討
- ・ 先進校等の視察，他のフロンティアスクールの授業公開等への参加

平成16年度

テーマ 子どもが自らの学びをつくる授業で、確かな学力を！
「確かな学力」向上のための特色ある教育の確立

仮説 子どもが自らの学びをつくる授業をめざした授業の工夫と改善を行い，それらを継続的系統的に行うシステムを確立すれば，子どもに確かな学力を定着させることができるであろう

研究内容・方法

- ・ 1・2年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容，方法等の整理とまとめ
- ・ 3年次の実践研究計画立案
- ・ 実践研究体制修正
- ・ 実践研究内容，方法の年間計画の見直し（実施教科，学年，実施形態等）
- ・ 重点教科等以外の年間指導計画の見直し（重点教科の実践研究の成果を生かして）
- ・ 「確かな学力」の向上を中心とした学校全体計画の作成（各教科等の関連の明確化）
- ・ 実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと検討
- ・ 実践研究推進（実践研究内容，方法等の焦点化や拡充）
- ・ 研究発表協議会の開催（第52回研究発表協議会，第35回複式教育を語る会，平成16年度特別支援教育を語る会等）
- ・ 夏期集中校内研修会開催
- ・ 児童の実態調査等の実施（児童，PTA，教職員） 1・2年次との比較
- ・ 先進校等の視察，他のフロンティアスクールの授業公開等への参加

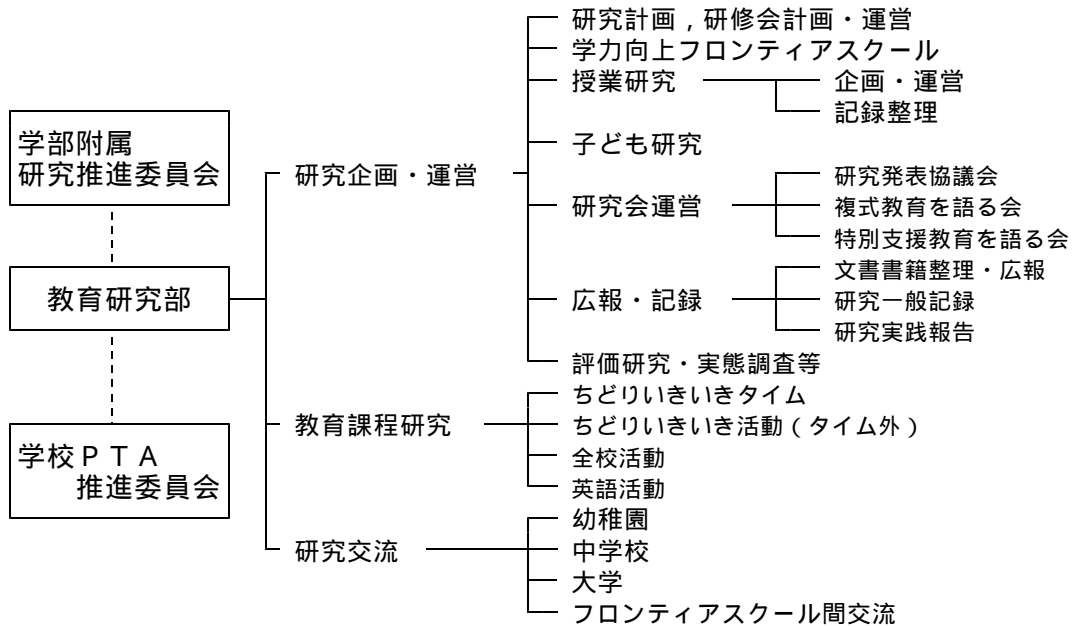
(3) 研究推進体制

フロンティア事業に関する推進委員会の組織

メンバー：管理職，PTA役員及び研修部員

活動内容：研究計画，研究構想，授業研究企画・運営，教科研究
教育課程研究，総合学習研究，道徳・特別活動研究
評価研究・実態調査，子ども研究，記録・整理 等

実践研究組織の概要



Ⅲ. 平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

これまでの実践研究の集大成、著書「自らの学びをつくる授業」の発刊
 学力とは、「基礎的・基本的な内容に関する知識や技能と共に、自ら追求していく意欲や思考力、判断力、表現力などを包括した生きる力」であり、「今後の学習や自らの暮らしに生かしていくことのできる生きて働く力」と考え、この学力観に基づき、子どもの「自らの学び」に着目し、個に応じたきめ細かな指導を行っていかうとした。その研究成果を本校著書「自らの学びをつくる授業」にまとめ、平成15年6月19日発刊した。

教科専門教官による教科担任制の推進と個に応じた指導のための指導方法の工夫改善
 子ども一人一人が主体的に学習に取り組んでいくために重要となる「授業（活動）の枠組み」の4点（対象との出会わせ方とめあての設定、まかせる場面の設定、わかり合いの場面の設定、ふりかえりの場面の設定）に留意して、実践に取り組んだ。

全教官がそれぞれの専門教科についての提案授業を複数回行った。
 特に第51回研究発表協議会では、島根大学教育学部の大学教官、県内公立学校教諭と共に授業を構想し、教育事務所指導主事、公立学校校長先生にご指導いただいて、望ましい授業づくりについて協議した。それぞれの教科等で、これからの授業づくりの方向性を見出した。

10月に本校の原啓一朗教官の提案授業を細かく検討する校内授業研修会を行った。（全体での検討会を計4回、他、単元を通して、島根大学教育学部理科研究室教官、本校理科部、本校研修部による検討会を実施した。）授業検討グループを5つ設け、対象との出会いについて、子どもにまかせることについて、わかり合いの場のあり方について、ふりかえりの場のあり方について、教師の働き掛けの実際についての視点でグループ討議をし、全体研で報告する形をとり、「自らの学びをつくる」をめぐる、研修を深めた。

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための学習教材の開発、導入
 教材開発については、「自らの学び」の実現のため、各教科部等が協議・検討して効果的な教材の研究開発に取り組んでいる。特に対象との出会いの場面を大事にし、何と出会わせるか、どのように出会わせるか、どのように関わらせるかについて検討し、外発的な動機づけだけに頼らない、内発的な動機づけができる教材を模索している。自動車組み立てラインモデル、漢字カルタ、自学ソフト「5択」など1年次に開発した教材を活用、改良すると共に、新たな教材を開発、導入している

・各教科等において、「自らの学び」を生み出す教材性をもった対象を開発・選定し、対象との出会わせ方の工夫を図っている。

例 1年 国語 説明文 「いきものクイズをつくろう」
 5年 社会 食料生産の課題 「Fさんの取り組みを深くさぐって」
 5年 算数 小数のわり算 「説明道具を使って説明しよう」
 4年 理科 月と星 「満月から下弦の月へと移行する月と出会わせて」など
 （資料... 51回研究会活動案集）

- ・計算力の向上を図る教材や思考力を育成する教材を導入し、普段の授業や「ちどりタイム」(毎朝15分間の自主学習の時間)などにおいて活用した。

例 ペントミノ(内田洋行)...豊富な図形感覚を養う
 ジオボード(内田洋行)...図形の構成の学習、面積の学習において活用する
 ポリドロン(東京書籍)...立体図形の効率的な学習に役立つ
 ジャマイカ(トモ工算盤)...計算練習用教材
 アルゴ(学研)...数の予測ゲーム、論理的な思考力の育成に役立つ など

補充的な学習としての高学年の学習会、学習相談の実施

従来積み重ねてきている通り、6年生において各教科の専門教員による特別授業(学習会学習相談)を実施し、小学校6年間の学習のまとめを行った。子どもがその日に行われる授業内容一覧を見ながら行う、講座の履修手続きを行うような授業選択システムも定着し、より深めようという願いや苦手なところを補おうとする意欲、自分自身を評価しようとする態度が高まっている。

本年度は対象を5年生にも広げ、高学年の補充的な学習として2カ年の展開を計画し、実施に移している。

教科専門教官と担任との協力的な授業の実施

教科担任制を採っていない国語科、算数科について、教科の魅力を高めるような教材を開発、選定し授業を行った。(1~4年各学級1時間以上実施)

児童のつまずきを早く発見する方法を取り入れた授業なども実践し、つまずきに対する教科専門教官と担任との協力的な指導のあり方を検討した。また、今後の補充的な学習の学習法についてミーティングを行った。

複式学級の授業による、きめ細かな指導や少人数学習の望ましいあり方についての検討
 第34回複式教育を語る会においては、「友だちとの関わりを高める」をテーマに、少人数学習の中で、互いに関わり合い、高めあっていくための教師の手だてについて提案した。

公開授業 低学年 算数 1年「ひき算」 2年「かけ算」
 中学年 国語 「わかばスピーチ大会」~こうするとスピーチはよくなる~
 高学年 算数 「ドレミの音のひみつを見つけよう」~割合~

また、複式学級の算数科を中心に、学年別学習をガイド学習の形態で実施している。子どもたちによる進行の仕方が上達し、子どもたちで深めていく学習が定着してきている。

その他の特色ある取り組み

- ・PTAの「お話の国」(本の読み聞かせ同好会)による読み聞かせ、本の紹介
読書本来の効果に加え、児童の集中力を高め、授業への姿勢(構え)をつくるために効果的である。
- ・大学関係者や地域の人材を中心とした学校外の様々な分野の専門家を活用した本物にふれる授業
人材活用例 県立美術館学芸員 聴覚障害があるAさん 地産地消を進めるBさんなど
- ・大韓民国釜山教育大学校附設初等学校教官との相互交流、相互授業研究会の開催
本校から原教官が渡韓。釜山から朴教官が来松。朴教官による理科4年「もののあたたまり方」の授業では、概念くだきの手法の有効性について指導を受けた。出会わせる対象の選定が極めて重要であることが、言葉が通じにくい状況下でも立派に授業が成立することによって浮き彫りにされた。

2. 今後の課題

個に応じたきめ細かな指導のあり方(具体的な内容や方法)について研究を進め、「自らの学び」の育成をめざす授業の具体的な展開についての論究として著書を発刊した。しかし、実践を重ねていけばいくほど、子どもものづくり出す「自らの学び」を丁寧にとらえているのか、教師が構想した「授業の枠組み」と「はたらきかけ」は、ほんとうに子どもが主体的な学びを生み出してきたのかなど、課題が多いことに気づかされる。今後、著書に収めた実践と照らして、新たなアイデアを授業に盛り込む努力を払いながら、子どもをとらえる眼を養う地道な実践活動を積み上げていくことが、私たちの課題である。

また、学力向上を期して取り入れた教材や学習会などの取り組みについては、2カ年の研修によって、教材については数が増え、取り組みについては改善が施されてきた。最終年次の次年度は、それらが効果的に活用されるために、年間計画や時間割に位置づけたり教材活用ごよみとして整備したりするなど、継続的系統的な運用のための「システム化」が大きな課題である。

IV. 学力等把握のための学校の取組について

定期的な学力調査の実施（年1回 6月実施）学習定着状況の把握

学期末評価「あゆみ」

くらし、学習、学習の構え、学習内容などに関する評価観点を設け、児童の自己評価（ ）に、教師の評価を加えたものを学期末評価として継続的に積み上げている。児童の指導の助けとすると共に、保護者個人懇談の資料として児童の学習状況を伝えている。

児童のくらし、学習に対する意識をとらえることに有効であり、児童の自己評価能力を高める上でも有効である。

学習の仕方カード

聞く力、発表の力など、学習の構えについての自己評価カード記入を取り入れている。学習の構えの向上を期して、それぞれの力について到達レベルを設定し、現時点での自分がどのレベルにあるかを自覚できるようにした。担当が適宜使っているが、全校一斉の指導重点期間も設けて、取り組みの気運を高めながら、児童一人ひとりが意識の高まりを自覚できるようにした。

V. フロンティアスクールとしての成果の普及について

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、テーマ、対象）

- ・第51回研究発表協議会（平成15年6月19・20日、島根大学教育学部附属小学校、テーマ「くらしをひらく子ども」、教育関係者）
- ・第34回複式教育を語る会（平成15年12月5日、島根大学教育学部附属小学校、テーマ「学び合い、高め合う子ども」、教育関係者）
- ・平成15年度特別支援教育を語る会（平成16年2月6日、島根大学教育学部附属小・中学校、テーマ「一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援と授業づくり」、教育関係者）
- ・学力向上フロンティア事業松江教育事務所訪問指導、公開校内授業研修会（平成15年11月18日、島根大学教育学部附属小学校、教育研究者）
- ・PTA総会、学年学級保護者会（平成15年5月、学期1回程度、保護者）
- ・第52回研究発表協議会（平成16年6月17・18日開催）

研究成果普及のための資料作成等の実績、予定

- ・著書「自らの学びをつくる授業」 島根大学教育学部附属小学校
A5版196ページ ￥2400
- ・本研究会（6月）、複式教育研究会（12月）、特別支援教育研究会（2月）活動案集
- ・HP作成（工事中）（<http://www.chidori.shimane-u.ac.jp/>）
- ・学校だより（保護者向け）

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績、予定

- ・学力向上フロンティア事業松江教育事務所訪問指導、公開校内授業研修会、情報交換会
授業公開 算数 2年 「くりあがりのあるたしざんの復習ときまり発見」
（平成15年11月18日、島根大学教育学部附属小学校）
- ・平成15年9月25・26日 松江教育センター 小学校算数科教育講座（高学年）講師
- ・平成15年6月30日 松江市立大庭小学校3年2組での授業（算数）、教材紹介
- ・平成15年10月27日 松江市立母衣小学校2年1組、2組、3組での授業（算数）
- ・平成15年11月27日 八雲村立八雲小学校公開校内授業研修会参加、教材紹介
- ・著書「自らの学びをつくる授業」執筆
- ・2003年度研究紀要 事例紹介
- ・「コンパス」（教育出版）教材紹介
- ・「教育研究11月号」（初等教育研究会）事例紹介
- ・「算数授業研究32号」（東洋館出版社）教材紹介

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	TTによる指導 その他
【研究教科】	国語 社会 算数 生活 音楽 図画工作 体育 その他（特別支援、総合的な学習）	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無